# 大和の義兄は最強の武士！！

怒レイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
大和の義兄は最強の武士！！

【Ｎコード】
Ｎ９８５４Ｙ

【作者名】
怒レイン

【あらすじ】
２－Ｓと２－Ｆの川神大戦に大和の義兄の蓮夜が乱入する！
本編は川神大戦から始まります。が、２、３話書いたら戦国ＢＡＳＡＲＡにタイムスリップします。

## 主人公プロフィール

オリジナル主人公プロフィール

『名前』

・織田蓮夜（おだれんや）

『性別』

・男

『身長・歳・体重』

・176？・17歳・67？

『好きなもの・嫌いなもの』

好き・風間ファミリーと肉と剣

嫌い・ホモやレズ

『容姿・性格』

容姿・白銀の髪に赤い目をしている。顔は上の上でかなりのイケメンである（本人は自覚をしていない）。

性格・自由気ままでやりたい事や興味があるものには積極的に参加するが興味が無いものは適当やる。大和や翔一は甘い。

蓮夜は日本の道場や暗部を総ナメしている。蓮夜が行った道場は尽く潰れている（師範が負けるから）。ちなみに武器は拳一つだけ

## 一話（前書き）

主人公は流派にこだわりません

# 一話

蓮夜「やっと着いた」

大和に呼ばれて川神に帰って来たが・・・

蓮夜「川神学園じゃ無いのか？この紅いのは何だ？」

プルルルル

蓮夜「大和！お前何処に居るんだ？」

『今は川神大戦で2―Sと戦って居るんだ』

蓮夜「！今すぐ行くから持たせろよ大和！！」

『分かったよ。早く着てよ兄さん』

そういって電話を切った。

蓮夜「よっしゃ！早速行くか！」

大和サイド

大和「ふぅ～。」

翔一「誰から電話が来たんだ大和？」

大和「頼りになる人兄貴？」

翔一「あの人が来るのか！？」

岳人「あの人って・・蓮夜か！？」

クッキー「蓮夜が来るなら大丈夫だね！」

卓也「でも、いつ呼んだの？大和？」

大和「先週だよ」

大和サイドＯｕｔ

う～ん。着いたはいいが、あちこちに強い気を感じるな・・・

蓮夜「むっ！、モモ先輩が強い気の奴を倒したな。大和から聞いたがモモ先輩は敵だよな」

なら決まりだな

百代サイド

まゆっちを倒したが後、揚羽さんと松永を倒さなきゃか・・

揚羽「九鬼家決戦奥義・古流昇天波！！」

ズドーーーーン！！

百代「腕は衰えて無いな揚羽さん！！」

燕「行くよー百代ちゃん！！」

ビュゥゥゥゥゥ！！

百代「川神流星殺し！！」

プキュィィィン！！

燕「きゃぁぁぁぁぁ！！？」

燕さんを飛ばした時に懐かしい奴が現れた

スドーーーーン！！

「久しぶりだなモモ先輩」

百代サイドＯｕｔ

揚羽さんも燕さんもやられかけてたし

蓮夜「久しぶりだなモモ先輩。」

百代「大和め、まさか揚羽さんだけじゃなく、蓮夜まで引き込むなんてな」

蓮夜「燕さんと揚羽さんは休んでいてください！」

揚羽「ああ、頼んだぞ蓮夜」

燕「よろしくね蓮夜くん」

さて、久しぶりに本気を出すか

百代「行くぞ蓮夜！禁じ手・釘椿！！」

蓮夜「仁雷裂波っ！！」

ズガーーーーン！！

百代「くっ！？」

蓮夜「タアアアアアア！！」

百代「ハアアアアアアア！！」

シュンッビシッシュンッシュンッシュンシュンッシュンッドカッシュンッドカッシュンッシュンッ

蓮夜「チッ・・喰らえっ！！」

百代「大振りを待っていたぞ！！」

ズガーーーーン！

百代「弱くなったな蓮夜」

蓮夜「・・・ニッ」

ボコボコボコッ

百代「しまった！？」

蓮夜「…川神流・人間爆弾…」

ドカーーーーン！！

百代「うわっ！？」

蓮夜「ハアアアアアアッ！！」

シュゥゥゥゥ！！

パン、パン、パン！！

鉄心「川神大戦終了」

バシッ

蓮夜「！！」

百代「・・・？」

翔一「討ち取ったぜぇー！！」

「「「イエェェェェェェ！！」」」

おっ、キャップ達が勝ったか

蓮夜「終わったみたいただな」

百代「負けたのか？」

揚羽「百代」

燕「百代ちゃんの力は強いんだけど脆いんだよね」

百代「……脆い…」

しばらくして

大和「う…ぅぅん…」

岳人「やっとおめざめか特攻軍師？」

京「大丈夫、大和？」

大和「大戦は？」

一子「キャップがちゃんと決めてくれたわ。それに蓮夜がお姉さまを止めてくれてたし」

クリス「うむ、あと一歩でモモ先輩は負けてたな」

由紀江「凄かったですね」

翔一「そんな事より勝鬨を上げようぜ！」

大和「分かった。…みんな！権利の権化であるＳ組は倒した！俺達の勝利だ！！えい、えい、おー！！」

「「「えい、えい、おーーー！！」」」

## 二話

蓮夜「何時までついて来るんだ、百代先輩？」

朝会ってからずっとついて来るし

百代「いいじゃんか別に」

蓮夜「俺、これからゲーセンに行くんだけど」

と百代先輩に何回目か言ったら

「兄ちゃん可愛い彼女を連れてるじゃねぇか」

「女を置いてさっさとどっかに行きな！！」

「そうだぜ。その姉ちゃんには俺達二十人とヤって貰うんだからな」

ザコ臭のする奴が現れた。しかも最後の奴キモっ

蓮夜「一応聞くけど百代先輩の知り合い？」

百代「そんな訳ないだろ」

なら

蓮夜「ぶっ飛ばすか」

「野郎！女の前だからって調子に乗りやがって、やれ！！」

「「「うおおおおおお！！！」」」

いっせいに掛かって来たが、動きが素人過ぎる

蓮夜「遅すぎる。織田流・獅琉翔雷！」

蓮夜は百代先輩を抱えて飛び、片手に気をためて雷が落ちる様に気を放った

ズドーーーーン！！

「「「……チーン」」」

全員に命中して二十人は気絶した

蓮夜「ザケ～」

百代「れ、蓮夜？さすがにいきなりは困るのだが／／／／／／」

現在はお姫様抱っこ中

蓮夜「ワリィ、ワ…リ…ィ…？」

百代「どうし…た…？」

蓮夜と百代の前には大和と風間ファミリーの（百代を抜いた）女子が変な犬を追いかけていて、こっちに向かって走って来てた。

蓮夜「とりあえずあの犬を捕まえてくる」

百代「分かった」

大和達サイド

大和「兄さんと姉さんだ！兄さんー！その犬捕まえて！！」

蓮夜「オーライ、行くぞ犬！蟒殺し！！」

シュシュシュシュシュ！！

大和「殺してじゃない！！」

「ワオオオオオン！」

スカッスカッスカッスカッスカッ！！

蓮夜「避けた！？ならば死点！」

ガスッ

「キュゥゥ！！」

ドスッ

大和「死んでないよね？」

蓮夜「安心しろ死点に気を流し気絶させただけだ」

百代「蓮夜。あとで私と戦って貰うぞ」

一子「どうすればそこまで強くなるの？」

由紀江「一手ご指南して欲しいです」

蓮夜「ただ道場を潰して日本を回っていただけだ」

クリス「それは悪ではないか！？」

蓮夜「安心しろ。授業料をぼったくる所を潰すだけだ」

京「そういえばモモ先輩と蓮夜は何で二人で居るの？」

大和達サイドＯｕｔ

京「そういえばモモ先輩と蓮夜は何で二人で居るの？」

京にそう聞かれたから普通に

蓮夜「しら「デートだ」ん…？」

「「「え、えええええええ！？」」」

蓮夜「違うからな。」

百代「チッ…連れないな蓮夜」

蓮夜「あらかた、鉄心さんにもっと女らしくしろってんで龍封穴を喰らったんだろ」

百代「そうだぞ。それでどんな奴が来ても守ってくれるのが蓮夜しか居ないからな」

大和「なるほどね。まぁ、俺達は依頼も終わったし帰るね」

と言って、大和達は帰って行った。

蓮夜「俺達も行こうか」

百代「ああ」

## 番外編・前半（前書き）

次まで百代サイドで話が進みます。

## 番外編・前半

川神大戦から一週間がたった日、鉄心さんに呼ばれて川神院に行って蔵の掃除を頼まれたのだが・・・

連夜「ガラクタや埃だらけだな」

掃除を頼まれたが埃だらけなので飽きたから面白そうな物を探しているが見つからん。

連夜「・・おっ。それらしいのがあるじゃん！」

いかにも面白そうなな箱があったから開けてみるか

連夜「なんだ・・・秘伝書？・・字は読めないが試してみるか」

百代サイド

買い物が終わって帰ってきたはいいが・・

百代「騒がしいが何だ？」

挑戦者かと思い向かおうかと思ったやさきに遠くから人が飛んで来て壁にぶつかった

百代「どうしたんだ？」

「く・・むむ。ん？百代殿お帰りなさいませ。じつは、連夜殿が急

に暴れ出して」

百代「連夜が・・？」

私は急いで連夜の所に向かったのだが

「連夜殿！落ち着いて――あべしっ！」

「いっせいにかかって取り押さえ――うわらばっ！」

よく分からないが、リー師範代がギリギリ押さえている感じだった

百代「連夜！」

とりあえず呼んでみたら連夜は動きを止め、私だとわかった瞬間一足飛びに飛びかかってきた。

ドシーンッ

百代「いつつ・・・連夜？」

あまりの速度に避ける事ができなかったが痛みを我慢して連夜の名前を呼んだら

連夜「にゃあ」

と鳴いたのだった。

しばらくして

ルー「連夜はおとなしくしているカ」

連夜「フーッ！」

連夜が威嚇をしたのでルーさんはそれ以上は近づくのをやめた。

百代「どうでした？」

ルー「原因がわかったヨ。保管してあったいわくつきの秘伝書ネ」

百代「大丈夫なんですか？」

心配なのでルーさんに聞いてみたら

ルー「命に関係はないネ。象形拳と言うのを使って自己暗示で動物そのものになってしまう技だネ」

百代「動物そのものに。ならまた暴れ出さない様にみんなの所に連れて行くか」

ルー「よろしく頼むネ」

その後川神院を離れ秘密基地に向かった

しばらくして

百代「みんな居たのか」

大和「暇だったからね。ところで兄さんは何をしてるの？」

と大和が聞いてきたのでありのまま話た。

大和「じゃあ兄さんは・・」

百代「ああ、今は猫だ」

一子「連夜に触っても怒らないお姉様？」

百代「秘密基地に連れて来てからは暴れてないから大丈夫だろ」

私がそう答えたらワン子が警戒しながら連夜の頭に触れた

連夜「ふにゃん？」

連夜は視線を上げワン子を見たら嫌がる素振りは見せず、気持ちよさそうに目を細めた

ワン子「可愛いわ～」

連夜の頭を撫でれてワン子は満足したようだ。その後も京やまゆっち、クリス、モロ、大和、キャップまでは撫でれたが

岳人「俺様も触るぜ！」

岳人が触ろうとしたときに連夜が動いた

連夜「ふしゃー！」

勢いよく連夜が岳人に猫パンチを岳人に食らわせた

岳人「ぐはあああ！」

百代「今は猫だから怒らせるなよ」

翔一「怒らせると岳人みたいになるな」

岳人「別に怒らせる気はなかったんだが」

由紀江「今は意識が猫なんですから手加減がきかないんてますから」

岳人「怒らせる気はなかったんだがな」

卓也「猫だから警戒心が強くなってるんだね」

モロが冷静に分析した

クリス「岳人が悪いな」

京「そうだね」

クリと京に言われて岳人は落ち込んだ

百代「まあ、こんな感じで連夜は今はとっても不安定だから、みんなにもしばらく協力を頼みたい」

翔一「任せとけ！」

そうキャップが胸を叩いて請け合い、ほかのみんなも同調してくれた。

百代サイドout

## 戦国ＢＡＳＡＲＡにトリップ（前書き）

とりあえずＢＡＳＡＲＡにトリップします

## 戦国BASARAにトリップ

連夜「家の中から戦国時代の真田の旗や六文銭が出てくるとは。祖先が真田関係か？」

ある日、連夜は家の倉庫に面白そうなものが無いか見ていたら戦国時代の真田の旗と六文銭を見つけた

連夜「ん～。ん？」

しばらく観察していたら、いきなり真田の旗と六文銭が輝き始めた。

連夜「・・なんかヤバげだな」

そう思った矢先により一層激しく輝きだした

連夜「うわあああああああ！！？」

百代サイド

百代「連夜～」

私は連夜の家に行った時に倉庫が輝やいていた。その時・・

連夜「うわあああああああ！！？」

百代「連夜ーーーーー！！！」

輝きが収まった時に倉庫に行った時に連夜の姿は無かった。

百代サイドアウト

連夜「ぅ・・ぅぅん・・・どこだここ？」

確か旗が輝いて気を失ったから普通に倒れているはずなんだが・・・

連夜「何で布団で寝ているんだ？」

そう思っていたときに人が来た

？「目が覚めたで御座るか？」

連夜「ああ。ところで俺は何で此処にいるんだ？それとあなたの名は？」

幸村「失礼いたした。拙者は真田幸村で御座る。此処は武田荘でお主が倒れていたのを姉上が見つけ連れて来たで御座る」

そうなのか。だとすると・・・

連夜「真田殿の姉上は俺の命の恩人って訳か。」

そういえば名乗って無かったな・・・

連夜「まだ名前を言って無かったが俺は織田連夜だ」

幸村「なんとっ！？まさか信長の仲間か！？」

真田がそういった時に周りに居た忍者の殺気だっている

連夜「まてまて！説明するから忍者達の殺気を静めてくれ！！」

？「へぇ～、アンタ俺様達の殺気に気づいたのか？」

幸村「佐助、この者をどうすればいいので御座るか？」

佐助「俺様ならすぐさま殺すが、姉さんや親方様が怒りそうなんだよな～・・とりあえず説明してくんない？」

俺は家に真田の旗や六文銭があって、真田の旗が輝いて気を失った事を話した。

佐助「それで気づいた此処にいたって訳？」

連夜「そうだ。訳わかんないだろ？」

幸村「ならばしばらく此処に居るで御座る」

「「えっ！？信じちゃうの！？」」

幸村「？？？何でで御座るか？」

連夜「ちょっといい忍者さん？」

佐助「なんだ？あと俺様は猿飛佐助だ。佐助でいい」

連夜「じゃあ俺も連夜でいい。・・・佐助、真田殿は天然なのか？バカなのか？（コソッ」

佐助「残念な事に両方だ」

連夜「・・・面白いな」

佐助「そいつはどうも」

佐助と話していた時に人が来た。

？「あら、目が覚めたのね？」

幸村「あ、姉上！？」

姉上って事は真田の姉か

連夜「はい。助けてもらいありがとうございます」

雪「まだ名前を言って無かったわね。私は真田雪よ。よろしくね」

連夜「俺は織田連夜です。」

雪「・・まあ、いいわ。それよりアナタの服は初めてみるけど髪や目を見る限りでは異国の人？」

連夜「父親がこの時代なら異国の人で母親が日の本の人間ですよ。」

幸村「つまり、どういう事で御座るか？」

連夜「半分は日の本の人間の血が流れていて、半分は異国の血が流れているという事です。」

タッタッタッ

「幸村様！上杉が川中島に来ています。急ぎ鎧をつけてください」

幸村「うむ、わかった」

連夜「俺もついて行こうっと」

キングクリムゾン　（合戦を飛ばします）

上杉軍に勝った後

謙信「流石は我が生涯の宿敵、完敗です甲斐の虎よ」

信玄「お主のお蔭で張りのある半生であった。心より礼を言うぞ謙信よ」

謙信「越後の明日は甲斐の虎に託します。この御方を信じ、皆で力を尽くすのです、よいですね」

信玄「任せておけ謙信。」

謙信「最後に銀色の髪をしたアナタに名前を聞きたい」

連夜「俺の名は織田連夜だったが今は真田連夜と言う名だ。」

謙信「よい名ですね。信玄よ早くヤりなさい」

信玄「うむ」

幸村「親方様！」

信玄が謙信を介錯しようとした時に幸村が信玄様の名を呼んだ

信玄「幸村よ、よう見ておくのじゃ。お前にもいつか斯様なときが訪れよう。」

幸村「ぅ・・はっ！」

謙信「お別れです。私の美しき剣。」

信玄「さらばじゃ、謙信」

謙信「・・・」

信玄「てやあああああ！！」

ビュウウウウウウ！！！と信玄様の武器が謙信公の首を跳ねようとした時に

「信玄公ーーーーぅ！！！」

と言う声が聞こえた。

バシーーーーン！！！

幸村「ぬぅぅぅ・・なぁ。」

連夜「ん？」

幸村「あれは徳川・・家康殿」

連夜「あれが・・」

家康「絆を断ってはいけない信玄公」

謙信「・・東将殿」

信玄「竹千代か？」

家康「ご無沙汰しています」

信玄「おおきゅうなりおったのぅ」

家康「あはは、そのつもりでしたが。それでもアナタは大きい。ますますのご壮健ぶりなにより。元気そうだな真田幸村」

幸村「お久しゅう家康殿」

その後、家康が色々喋り、信玄様がそれを成してみろといい、川中島の合戦は終わった

## 戦国ＢＡＳＡＲＡにトリップ（後書き）

トリップしたあとは真田を名乗っています。武器は相変わらず拳一つ

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9854y/

---

大和の義兄は最強の武士！！

2011年12月16日00時46分発行